日本学術会議　課題別委員会
持続可能な長寿社会に資する学術コミュニティーの構築委員会
持続可能な長寿社会に資する学術のロードマップ分科会（第２回）
議事要旨

日時：　平成 22 年 9 月 7 日（火）9:00～10:35
会場：　日本学術会議 5－C（2）　会議室
出席：秋山弘子（委員長）・井藤英喜（副委員長）・桑野園子（幹事）・住居広士（幹事）・
白澤政和・樋口美雄・岩本康志・大内尉義・長田久雄・直井道子・芳賀博司・
柴田博・丸山直記（13 名）
欠席：北徹・荒井良雄・伊福部達・太田喜久子・金川克子・安村誠・山根源之（7 名）

議題：　1. 議事要旨（案）の確認
2. 各分科会からの審議事項のフレームを報告
3. 学術のロードマップ策定の進捗状況の報告と審議
１）近未来の超高齢社会のあり方
２）研究課題の洗い出しについて
３）学術のロードマップ策定について
４）アンケート調査案
4. 今後の進め方について
5. その他

資料：
資料１　前回議事要旨（案）
資料２　ジェロントロジー教育分科会における審議事項フレーム
資料３　審議の進め方に関する検討メモ
資料４　学術のロードマップ策定シート
参考１　委員名簿

○秋山委員長
・資料の確認をする。
・前回議事要旨（案）の確認し、修正・加筆は事務局へ連絡する。
・親委員会を開かないため、ロードマップ分科会で進捗状況を確認する。

○柴田委員：ジェロントロジー教育分科会における審議事項の進捗状況の報告をする。
資料２の確認をする。２回開催する（７月１３日と９月１日）。
（１） 小・中・高校教育
それぞれの教育レベルで目的と手法が違う
・まとめ方の視点
現在、小・中・高等教育で行われている高齢者の理解、エイジングの理解、高齢社会の理解は、非常にわずかしかない。
まとめ方の視点に挙げられている、次ぎの４つのことが盛り込まれる必要がある。
○ エイジングと死についての理解（命、死生学、生命倫理学、エイジング研究等）
○ 高齢者についての理解
○ 人生 90 年をどういきるか、という生活（人生）設計教育（発達学も含む）
○ 高齢社会への対応策の理解（経営、マネジメント含む）
（２）学部・大学院教育
別の視点で考える必要がある
修士課程日本には桜美林大学で大学院教育が 2002 年、博士課程が 2004 年にできた。
アメリカには６つの博士課程がある。
学部レベルでは東京大学で、日本では初めての試みである。
（３）生涯教育
学校教育を含む概念になり、主として成人教育、方向に持っていくかはこれからである。
（４）看護・医療関連領域教育
臨床医学の老年医学が少なく、今後の高齢者医療をどうするかの様々な議論されている。
どういうレベルで看護学、老年医学が必要になるのか、その立ち位置を考える。
プライマリーケア、第二次医療、第三次医療、看護学、老年医学に共通性がある。
３．ジェロントロジーの研究者育成のあり方
上記のことを進めながら深めていく

○井藤委員：介護と福祉に関わる教育も含める必要がある。
臨床医学の老化に関して北先生が医療体制について提言を出される。

○柴田委員：福祉まで入れると検討することが多くなる。（４）の関連領域で検討したい。

○大内委員：老化分科会からの提言がある。
研究体制分科会の報告を前回議事要旨ですする。
まず何を議論するのかを議論して、審議事項の３つと研究者のコミュニティ作りを含めた４つが主体となる。現在の様々な問題点について、大学における教育について審議する。国立長寿医療センターを各地域に設置する。老年医学の分野で講座、診療科をつくる。具体的なニーズに関するアンケート調査（案）を検討する。科研費は、研究体制の在り方から繋げる

○柴田委員：　老年学博士（3 ページ）は桜美林大学が申請して公認されている。
東大の研究機構がモデルになる。

○大内委員：老年医学の一部が老年学に包含される。

○秋山委員長：学際的な組織に関して、大阪大学、慶応大学に学際的組織が検討されている。それぞれの分科会から提言案をまとめていく。

○長田委員：アンケートは、研究と教育は不可分なため、関係性を検討してもらいたい。

３．学術のロードマップ策定の進捗状況の報告と審議

○秋山委員長：アンケートのある程度のたたき台をつくり、若い研究員に任せた。

(A) 5 つの対象を区分しそれぞれの将来目標を提示する。資料３の A

(B) 研究課題洗い出しを、5 つの領域に分けて提示した。資料４の A

主体を、国民・地域・社会（国）・市場・イデオロギーに分割する。

厚生労働省、内閣府などの資料、「新老年学」で挙げた今後の課題を拾い出した。

達成時期について、短期 2015・中期 2020・長期 2030 として表示した。

アンケート調査の実施について（資料３）

時期　　：9 月中旬～10 月初旬

調査対象者　：学術会議の会員、関連学会の役員、自治体関係者、産業界の関係者など

調査方法　　：電子メール等の検討が必要である。

調査内容　　：(P４　問１～４）

審議

〇桑野委員：工学関係が少ない、もっと環境を増やせないか。
バリアフリーなどの環境も必要である。人間工学・音響・建築学会など

〇秋山委員長：住宅、住環境などにあるが、関連雑誌がないことも影響している。
工学系を補強する必要がある。エコなど直接的に関わらない面も入る。
個人の長寿化、人口の高齢化に関連することも入れる。

〇大内委員：達成時期にある〇の意味と判断基準を検討する必要がある。

〇白澤委員：国立長寿医療センターが、いつごろに解決するかの報告している。
2030 年の設定の根拠付けが必要である。2025 年の国のデータが多くある。

〇秋山委員長：2030 年では人口の３分の１が高齢者となる。時期の設定は必要である。
ロードマップをどのように使うのか。研究テーマと研究助成の参考。

〇樋口委員：市場の分野は、社会保障を入れる必要がある。高齢者市場だけではない。
市場を経済社会にするか。

〇直井委員：労働力と少子化が一緒になっている。少子化は分割した方がよい。

〇長田委員：重複しても、ロードマップの趣旨はなるべく広く拾っていく。
キーワードで検索できる形だと使い勝手がいい。

〇樋口委員：高齢者のメディアと情報も含める。

〇住居委員：各一部、二部、三部との関連性を銘記する必要がある。

〇長田委員：見通しが立つ課題について記載する。各委員からコメントをもらう。

〇秋山委員長：どこまで到達しているのか。そのときの優先課題とする。
専門分野について加筆が必要であり、その担当を決める。
たたき台の修正の添付ファイルを、変更履歴を取れる形式で送る。
できるだけ課題を集めてから、再整理をする。
活用するのは研究者が対象となる。

〇大内委員：具体的な問題設定が必要である。具体的に答える表現にする。

〇住居委員：その他の分野もつくる。ここですべてを含めることは難しい

〇白澤委員：市場と価値観の分野を、社会等に最終的に整理する必要がある。
研究なのか、社会政策で評価するのかで異なる。
アンケート調査で実現時期、短期・中期・長期について重要性を問う。

〇岩井委員：短中長などは解決なのか、達成なのか、緊急性なのかを明確にする。
研究として実現したことなのか、社会に成果として反映なのか。
専門領域を絞って問う。

〇樋口委員：分野によって違う。専門的な分野まですべて答えるのは困難である。
具体内容は専門家でなくても分かる表現が必要である。

〇柴田委員：何か統一性が必要である。特に「追究」という表現が気になる。

〇井藤委員：ある程度の課題を絞って問う。その時期の設定を明確にする。

○白澤委員：国民がどういうことを求めているのかの視点の方が整理しやすい。
専門家には特化したことを聞く。カテゴリーを分けて、一般には中カテゴリーを問う。二段階で専門家には小カテゴリーで具体的内容を問う。
○長田委員：アンケート調査でそれぞれの分野から研究課題の重要性を選ぶ形にする。
○秋山委員長：中カテゴリーの作成を検討する。専門分野に基づきフォーマットを作る。
老年医学関係は、大内、丸山、柴田委員等にて検討をお願いする。

次回の分科会の日程は、上記のアンケートが終わったあとに開催する。
11 月 2 日火曜日　日本学術会議９：００～１０：３０とする。